

事業の背景・目的

クビアカツヤカミキリは、大阪府内で平成27年に初確認されて以降大阪南東部にあたる南河内地域で被害が拡大し、現在被害地域が北上している状況である。松原市では令和2年に侵入が確認され、本市南部を中心に河川や幹線道路沿いで被害が発生している。しかし、本市北部を流れる大和川より北側地域では、被害の発生は少なく、本市の被害も侵入初期の状態であることから、現在本市はクビアカツヤカミキリ被害の北側前線にあたると思われるため、本市が行う防除対策は大和川以北への被害拡大防止に繋がる。また、クビアカツヤカミキリの防除技術の発展において意義があるものである。



事業の内容

令和3年度事業

事業① 防除対策事業

概要：市内の被害木とその周辺の未被害木も含めた薬剤注入による防除対策

結果：薬剤注入1ヶ月経過後に現地確認を行うと、フラスの排出が止まっている樹木が見られた一方薬剤が効いていない樹木も見られた。

事業② 情報発信及び普及啓発

概要：HPや広報誌の活用やポスターの配布による市民への周知啓発

結果：問い合わせ件数が増加傾向となり、市民の認知度が上がった。

令和4年度事業

令和3年度から継続して防除対策、情報発信及び普及啓発を行うとともに、実施した対策の効果を検証し情報共有を行うことで、防除技術の向上を図っていく。

事業① 被害状況の追跡調査

事業② 防除対策事業

事業③ 情報発信及び普及啓発

得られた成果

薬剤注入については、効果が出た樹木と出ていない樹木に分かれたため、薬剤を打つ時期・回数・薬剤の種類を再検討するとともに、寄生箇所が拡大傾向にあるので範囲を拡大し防除対策を行っていく。また、情報発信及び普及啓発活動についても継続して行い、市民と連携した防除対策を推進していく。

広域的な取り組みとしては、南河内広域防除対策推進連絡会議内で今年度実施した対策効果の発表及び周辺市町村の各対策の確認、また、大阪府環境農林水産総合研究所に薬剤注入のデータ提供を行うなど、広域的な防除技術の向上を図った。